

岸田外務大臣によるNZヘラルド紙への寄稿文

(6月7日掲載)

昨年、日本とニュージーランドは外交関係樹立60周年の節目を迎えました。私は、諸般の事情が許せば、重要な友好国であるニュージーランドに外務大臣就任以来初めて訪問する予定です。この機会に両国関係の今後のあり方についての思いを述べたいと思います。

両国は政府間の良好な関係のもと、貿易、観光、活発な人的・スポーツ交流等を通じて、重層的な人や文化の繋がりを築いてきました。地理的には決して近いとは言えない両国が、このような緊密な関係を築けたのは、両国国民が共通の価値や利益を有していることによるものと考えています。

ニュージーランドではラグビーやヨットといったスポーツが世界的に有名です。黒ジャージが強烈な印象を与えるニュージーランドラグビー代表オールブラックスと選手達の「ハカ」の踊りは、日本においてもラグビーファンだけでなく、多くの日本人を魅了しています。日本には大相撲という国技がありますが、その頂点に立つ横綱は「心・技・体」すべてにおける強さを備えているとされます。まさにオールブラックス選手にはこうした強さ、即ち、ジェントルマンシップが備わっていることから、特に親しみを持たれているの

ではないでしょうか。これも日本とニュージーランドの親密さの理由の一つの現れと思います。

両国は、地理的に、海に囲まれ、海によって生き、海の安全を自らの安全と考えるという共通点があります。両国の国益は、海洋における法の支配の実現を通じてアジア太平洋の海を徹底してオープンなものとし、自由で、平和なものとするところにあります。太平洋という海で繋がっている両国が、ルールを基礎とするアジア太平洋地域の将来像を共有する戦略的協力関係を再確認することは重要だと考えます。

私はアジア太平洋地域の戦略的環境が大きく変化している中、今回の訪問においてマカリー外相との間で民主主義や法の支配といった普遍的価値に基づく地域の安定的な秩序と繁栄の実現に向けて協力することを確認したいと思います。また、東アジア首脳会議（EAS）、アジア太平洋経済協力（APEC）、ASEAN地域フォーラム（ARF）等の地域的枠組みの強化、太平洋島嶼地域での連携や地球規模問題等、様々な分野での対話と連携の強化についても議論を深めたいと考えています。戦後、一貫して平和国家としての道を歩んできた我が国は、ニュージーランドとの間で協力と対話を推進させ、地域や国際でのルール作りに取り組み、また、日本自身の

力強い経済再生を通じて、アジア太平洋地域及び国際社会全体の平和と繁栄に、大きな貢献をしていきたいと考えます。

また、我が国は、本年3月に環太平洋パートナーシップ（TPP）協定交渉への参加を決断しました。TPP交渉の中で新たに作られる経済秩序は、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）等とともに、さらに広いアジア太平洋地域の新たな経済活動のルールの中核となるものです。日本は、ニュージーランドと共に、TPP交渉の場で、包括的で質の高い水準の協定を目指し、貿易・投資等のルール作りに積極的に貢献していきます。そうした取組を通じて、アジア太平洋地域に自由でオープンな、お互いに結ばれあった経済ネットワークを構築・強化していきたいと考えます。

幅広くかつ深みのある友好関係を築いてきた両国は、2011年にわずか1カ月弱の間に、共に大地震に見舞われるという困難を経験しました。今、両国の被災地の人々は様々な困難を乗り越えて故郷を復興させようと、kia kaha（共にがんばれ）の精神で力強くそれぞれの努力を始めています。我が国は、同時期に大震災を経験した両国の絆を活かし、アジア太平洋地域において防災や震災復興の分野で協力し、貢献できるよう、引き続き尽力したいと考えてます。

明8日からの私のニュージーランド訪問が実現すれば、両国の友

好協力関係の更なる発展や地域全体の平和と繁栄のために、力強い
二国間関係を築いていくことを楽しみにしています。

(1, 665語)